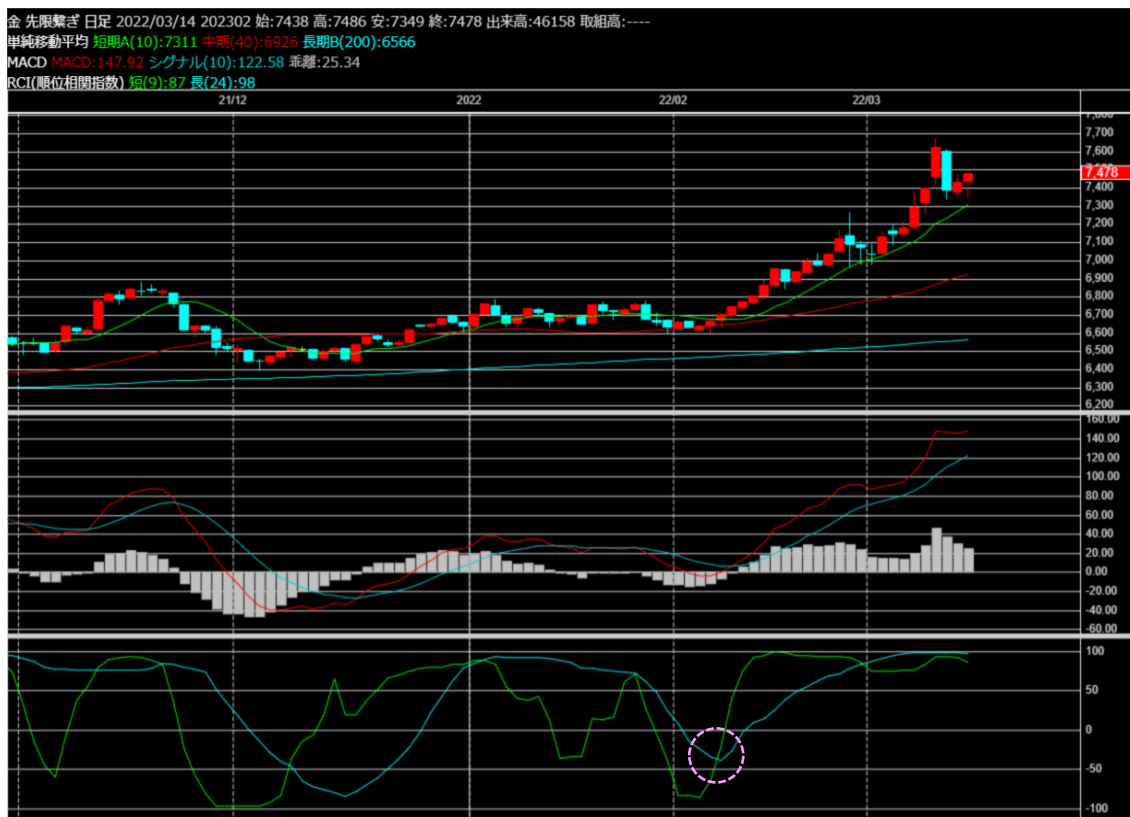


## <金標準先物、冷戦下におけるリスクヘッジの金見直し・・・>



(出所：オアシス)

ゼレンスキ・ウクライナ大統領は NATO 加盟を断念する可能性を示唆し、プーチン・ロシア大統領に譲歩を示した事で、NY 金は戦争プレミアムが剥げ落ち一時 2078.8 ドルまで高値を試しながら、一転して 1981 ドルまで反落している。そのため金標準先物も 7672 円まで高値を試しながら 7336 円まで反落している。

しかしウクライナ情勢で世界は冷戦時代へ逆戻りを行っており、冷戦下における資産ヘッジの手段ではペーパーマネーから現物への移行が強まり、金現物のリスクヘッジが見直しされる可能性は高くなっている。また今週は 15、16 日に FOMC が開催され、ウクライナ侵攻前はインフレ高に警戒したカ派の発言が多かったが、地政学的なリスクの高まりを受け、ハト派の発言を強めて年 7 回の利上げ回数も 4 回へ縮小される可能性も高く、ドル高の動きがドル安へ変化する可能性も秘めており、ドル建て金価格が下げ止まると思える。特にロシア経済は、西側の経済制裁でソビエト連邦の誕生した 1917 年ロシア革命に逆戻りする可能性が高く、経済のリスクヘッジの見直しからも再度高値を試すと思える。

### <テクニカル>

金標準先物の日足を MACD と RCI で見ると、MACD では MACD の伸びが止まり、シグナルは上昇している。また RCI では長期は高値を維持しているが、短期が長期を超える事無く下げだすなど、目先の高値追いは止まった様に思え、10 日移動平均線を試す可能性が高くなったと思える。

このレポートはお客様への情報提供を目的としています。情報に関しては正確を期するよう最善を尽くしておりますが、内容の正確性、信憑性に関し保証をするものではありません。利用にあたっては自己責任の下で行って下さい。売買の判断はお客様御自身で行って下さい。

○商品デリバティブ取引は最初に委託者証拠金等の預託が必要で、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚当たり通常取引 1,097,000 円(2022年3月14日現在)です。また、委託者証拠金は相場変動や日数の経過により追加預託が必要になることがあり、その額は商品や相場の変動によって異なります。○商品デリバティブ取引は相場の変動によって損失が生ずることがあります。また、実際の取引金額は委託者証拠金の約10倍から70倍と著しく大きいため、損失額が預託している委託者証拠金の額を上回ることがあります。○商品デリバティブ取引は委託手数料がかかり、その額は商品によって異なりますが、最高額は1枚あたり往復 36,080 円(2022年3月14日現在)です。手数料額は相場変動により増減する場合があります。

当社(商品先物取引業者)の企業情報は当社本・支店及び日本商品先物取引協会で開示しています。お取引についての御相談は、当社顧客サービス担当(東京)電話 03-3249-8827 (受付時間:平日 8:30~17:30)  
証券・金融商品あっせん相談センター <https://www.finmac.or.jp> 日本商品先物取引協会相談センター  
<https://www.nisshokyo.or.jp>